

A区分・C区分共通

No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	ミュージカル
----	----	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃ とうきょうえんげきしゅうだんかぜ 株式会社 東京演劇集団 風	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	代表取締役 浅野佳成		
制作団体所在地	〒 164-0003 東京都中野区東中野1-2-4	最寄り駅(バス停)	東中野駅/中野坂上駅
電話番号	03-3363-3261		
ふりがな 公演団体名	とうきょうえんげきしゅうだん かぜ 東京演劇集団 風	団体ウェブサイトURL	https://www.kaze-net.org
代表者職・氏名	芸術監督 浅野佳成 / 代表 柳瀬太一		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
制作団体 設立年月	1987年10月		
制作団体組織	代表取締役 浅野佳成 取締役 柳瀬太一、緒方一則、 西垣耕造 / 監査 柴崎美納	専属契約劇団員 35名 (俳優28名 / スタッフ7名) 実習・養成期間を経て、3年間の研究生期間の ち、専属契約を結び、劇団員となる	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	江原早哉香
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	辻幸男
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	sayaka@kaze-net.org		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>創立以来、〈風〉のように形を採らない自由な創造活動を求めて、東京・東中野の劇場を拠点に国内外のアーティストと共に演劇をつくり、全国で上演活動を行っています。</p> <p>1987年 東京演劇集団風 創立。同時に全国の学校に向けた巡回公演を開始 1999年 拠点劇場〈レパートリーシアターKAZE〉を建設 2003年 〈ビエンナーレKAZE国際演劇祭〉を開幕(以降、隔年で5回開催) フランス・東欧などのアーティストとの交流・協働を継続 2017年 創立30周年を迎え「肝っ玉おっ母とその子どもたち」「異邦人」「ピカソの女たち〜オルガ」などの新作・レパートリーを連続上演 2019年 すべての人に劇場を開く創造的な試み「バリアフリー演劇」を開始</p> <p>【主な受賞歴】</p> <p>2004年 拠点劇場によるレパートリーシステムの確立を目指し、特色ある演劇祭を実現した成果に対して、「第4回倉林誠一郎賞・団体賞」を受賞 2019年 より深く掘り下げられたレパートリー群と新作「記憶の通り路」(白根有子主演)の上演の成果に対し、「第20回テアトロ演劇賞」受賞 2023年 作家マテイ・ヴィスニユックが書き下し、劇団員総出演による「なぜへカベ」主演の辻由美子の演技が評価され、「第25回テアトロ演劇賞特別賞」を受賞</p>	
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>これまでのべ 6,000校での公演を実施 劇団創立から、先生方との対話を重ね、全国の青少年・子供たちに本格的な演劇体験を届け続けています。 [演目 星の王子さま、ヘレン・ケラー、ジャンヌ・ダルク ほか]</p> <p>【近年の実績】</p> <p>2021年(令和3年度) 92校 48,945人 小学校5校、中学校18校、高等学校69校 2022年(令和4年度) 134校 58,091人 小学校11校、中学校27校、高等学校96校 *離島10校含む 2023年(令和5年度) 99校 53,215人 小学校8校、中学校17校、高等学校74校 *離島20校含む 2024年(令和6年度) 143校 64,088人 小学校14校、中学校46校、高等学校83校 *離島16校、院内学級2校含む</p> <p>上演演目「星の王子さま」は初演から現在まで、のべ1500公演を行っています。</p>	
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>これまでのべ 128校での公演を実施 うち、68校で「星の王子さま」を上演 特別支援学校88校、盲学校14校、聾学校23校、病弱3校</p> <p>2019年からは手話・字幕・音声ガイドを演出に組み込んだ「バリアフリー演劇」を上演。特別支援学校での公演、特別支援学級と通常学級の交流を促進する公演、子供たちを核とした地域ぐるみの公演、フリースクール等の子供たちとの活動も行っていきます。 障害の有無や年齢などに関わらず、子供たちの誰もが時間と空間と希望を共に味わい、ひとりひとりが持つ芸術性に会えることを願って、舞台づくりを行っています。</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>
<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/dAOzqzwS9Lk ミュージカル「星の王子さま」ダイジェスト映像</p>	
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>PW:</p>

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 東京演劇集団 風 】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	学校のみんでつくるミュージカル「星の王子さま」			
-----	--------------------------------	--	--	--

企画のねらい	<p>すべての子供たちに、自分だけの“かけがえのないもの”を見つけてほしい</p> <p>舞台芸術のなかに飛び込んだ子供たちが、肌でその世界と関わり合うことで、身体と心をめいっぱい動かして関心や感動を深め、自分自身や周りをとりまく人たちと新しく出会える体験の場です。</p> <p>学年の違いや特性などの枠組みを越えて、「みんなの力でひとつのものができた！」という達成感や協働の面白さを感じられるよう、学校の全員が共演者になります。</p> <p>主体的かつ集団的な演劇づくりのプロセスのなかで、自分を信じて前へと進んでいく原動力となる「創造の楽しさ」「人のぬくもり」「それぞれのかけがえのないもの」を手にしてほしいと願っています。</p>			
--------	--	--	--	--

演目概要・演目選択理由	<p>大切なものは目には見えない、心で見なくては</p> <p>「星の王子さま」は、小さな少年がさまざまな出会いを通じて、友情や人との絆を知り、成長していくファンタジー作品です。</p> <p>あとから生まれてくる人たちへの、希望と平和の切なる願いが込められています。</p> <p>子供たちに、この世界でたったひとりの存在である自分を愛して、「生きることの美しさと力強さ」を感じ取ってほしい。王子さまと一緒に旅をして、「目には見えない大切なもの」を考えてほしいと、本演目を選択しました。先生や家族とも世代を超えて一緒に楽しみ、感動を分かち合える作品です。</p>			
-------------	---	--	--	--

児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>学校のみんで心をひとつに、ミュージカルをつくる</p> <p>全校児童生徒が、舞台を見るなかで生まれてきた王子さまへの想いを歌とセリフで表現し、物語のクライマックスをつくります。</p> <p>また、卒業を控えた最上級生が舞台上に登場し、旅立ちの歌を披露する場面、先生方も活躍する、特別出演場面も用意しました。</p> <p>「劇場」をまるごと体験し、舞台芸術と多面的に出会う一日</p> <p>大道具や照明・音響機材が運び込まれ、体育館が劇場となります。</p> <p>劇場づくりの裏側や、出演者・スタッフの仕事にふれて、演劇をより身近に感じられる(バックステージツアー)を行います。</p> <p>さらに、俳優・スタッフとの交流、座談会、キャリア教育講話なども、学校の希望に沿って実施します。</p>			
-----------------	---	--	--	---

児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	全校児童生徒(～700人目安)
		鑑賞人数目安	全校児童生徒(～700人目安)

ミュージカル

星の王子さま

原作 サン＝テグジュペリ 訳 内藤濯
構成・演出 浅野佳成 作曲 八幡茂

本公演演目

原作/作曲
脚本
演出/振付

あらすじ

ちっぽけな星に住む王子さまは、自分の星に咲いたたったひとつの花とけんかをして、様々な星をめぐる旅に出かけます。途中で出会った地理学者のアドバイスを受けて、王子さまは地球へと降り立ちます。飛行士やキツネと出会い、自分が残してきた花がはかなく、かけがえのないものだと気がついた王子さまは、物語の最後に、自分の星に戻ることを決意します。

共演シーン① 王子さまが星をめぐる旅の途中で出会う
愉快な星の住人「呑み助」の場面で、先生が特別出演

共演シーン② 1幕の最後、王子さまを地球へ誘う「地理学者」の役で、校長先生が登場

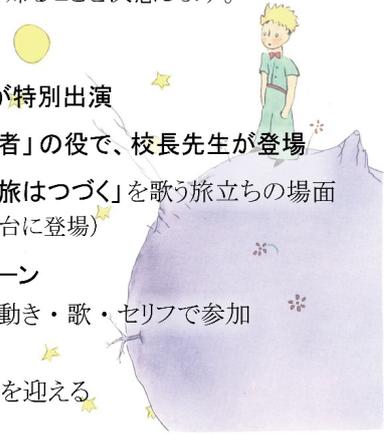
共演シーン③ 最上級生が舞台上でオリジナルソング「ぼくの旅はつづく」を歌う旅立ちの場面
(小学6年生、中学3年生の児童生徒全員が舞台上に登場)

共演シーン④ 全校児童生徒の共演によるクライマックスシーン

ワークショップでの練習をもとに、子供たちが動き・歌・セリフで参加

カーテンコール 出演した先生方も登場。

共演の歌を会場のみんなで歌い、フィナーレを迎える



公演時間 100 分

出演者

計9名 星の王子さま 白根有子、飛行士 緒方一則、花 渋谷愛、キツネ 工藤順子、へび 栗山友彦
星の住人たち 酒井宗親、蒲原智城 ほか

演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴
※3名程度
※3行程度/名

主演 白根有子

2008年より「星の王子さま」主演を担う。他に「ジャンヌ・ダルク」、「コーカサスの白墨の輪」など数多くの主演を務める。全ワークショップ・本公演に参加し、子供たちの演劇との出会いを創り出す(舞台歴25年)

出演 渋谷愛

2009年より「星の王子さま」花役で出演。「セチュアンの善人」「パール」などの主役を務め、フランス等での上演経験も豊富。ワークショップ・本公演共に参加し、学校との打合せも担う(舞台歴15年)

演出・芸術監督 浅野佳成

「星の王子さま」初演より、サン＝テグジュペリ遺族らとの対話を重ねる。2005年フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受賞。公演に同行し、参加共演場面の演出を担う(舞台歴50年)

本公演
従事予定者数
(1公演あたり)
※ドライバー等
訪問する業者人数含む

出演者: 9 名
スタッフ: 15 名
合計: 24 名

運搬

積載量: 11 t
車長: 12 m
台数: 2 台

本公演
会場設営の所要時間
(タイムスケジュール)
の目安

前日仕込み	有	前日仕込み所要時間	2時間程度			
到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出	
8時	8時～12時	13時～15時	10分	15時～17時	17時半	

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演
実施可能日数目安

※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)

6月	7月	8月	9月
10月	11月	12月	1月
	13日	18日	14日
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計 45日



体育館が劇場に変わる！ 体育館に設置された「星の王子さま」の舞台（※フロア面に舞台を設置します）



学校みんなが〈共演者〉になる！ 児童生徒の共演シーン



舞台をまるごと体験！ 舞台や衣装、音響・照明の仕組みに触れる〈バックステージツアー〉

- ・会場条件にかかわらず、すべての体育館で舞台設営が可能です。
- ・各校の活動を伺いながら、子供たちにとって充実した一日となるよう、先生方と一緒にスケジュールを話し合います。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 東京演劇集団 風 】

<p>ワークショップのねらい</p>	<p>相手を想い、誰かのために「やってみよう」という気持ちから、新しい行動が生まれる。そんな子供たちの心のモーターが動き出すことを大切に取り組みます。 表現はひとりひとりで、間違いも失敗ありません。 俳優たちと演じてみることを出発点に、自分を解放して、自身の感性・表現に出会ってほしい。そして、伝え合い、高め合える喜びを感じてほしいと考えています。 「私たちのミュージカルだ」と愛着を育て、〈共演者〉としての意欲を高めるワークショップです。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>	<p>参加人数目安</p>	<p>全校児童生徒(～700人程度)</p>
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>全校児童生徒で取り組む、「星の王子さま」共演場面の事前練習です。 本番でも共演する俳優が参加し、指導・進行を行います。</p> <p>子供たちが王子さまを支える 物語の最後、王子さまの旅立ちの決意を、全校児童生徒が励まします。 子供たちの想いに導かれ、王子さまが夜空の砂漠に消えていくクライマックスです。 物語のあらすじと共演シーンの概要を最初に伝えて、ワークショップが始まります。</p> <p>俳優と参加場面を実際に演じて練習する</p> <p>実演① 王子さまと一緒に歌う 旅立ちを決意した王子さまと「行こう」「さあ行こう！」と掛け合いながら、気持ちを高めて、オリジナルソング「ぼくは行く」を会場全体で歌います</p> <p>実演② 王子さまへの気持ちをセリフにする 自分の星へと旅立った王子さまに、それぞれのタイミングで「おーい、おーい、どこへ行ってしまったんだよー！」と呼びかけます</p> <p>実演③ 王子さまを支える動き 俳優と気持ちを合わせて、共演場面の一連の演技(その場に立ち上がり、王子さまと向き合って歌い、王子さまに別れを告げて座る)に取り組みます</p> <p>最後に、練習した要素を組み合わせ、本番通りにやってみます。 休憩中や実施前後には、道具に登ったり、俳優たちと話したり、音響オペレーターの実験も可能です。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の準備、練習は必要ありません。簡単な道具、音響機材を持ち込みます。 ・ 本公演の約1ヶ月前に体育館で実施します。 ・ 途中休憩を含んで、授業時数2時限分程度での実施を計画しています。 ・ ひとり一冊ずつ、「星の王子さま」の上演台本をお渡しします。 戯曲を読んでみる、声に出してみる体験を通して、作品への親しみや公演への期待感を得て欲しいと考えています。 		



別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 東京演劇集団 風 】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>離島やへき地・被災地を含めた全国で暮らす子供たち、経済的な面や障がいなどを理由に舞台芸術から遠のいている子供たちも含めたすべての子供たちに、最高の舞台芸術との出会い、かけがえのない体験をつくり出したいと考え、本事業に申請します。</p> <p>そのため、一校一校の学校との丁寧なやりとり、事前打合せを契機としたワークショップ・本公演・事後打合せまでのプロセスを大切に取り組みます。</p> <p>そして、事業の趣旨を理解し、事業でのノウハウと実績を有したメンバーが参加します。ひとりひとりの子供たちの有意義な一日を創り出すため、出演者・スタッフがチームを組んで、連携・協働・創意工夫しながら、以下のことに取り組みます。</p> <p>❶ 全国どこでも、舞台芸術との最高の出会いをつくります</p> <p>地理的な条件、体育館の構造や設置条件に関わらず、創意工夫を重ね、すべての体育館を本格的な劇場へと変身させます。</p> <p>俳優、美術や衣装、光と音の演出、協力するスタッフの姿など、ミュージカルを構成するさまざまな要素に自由に触れられる劇場です。子供たちが自分から動き出し、夢や憧れを育む、プロフェッショナルで安全な舞台空間を創出します。</p> <p>❷ 学校のみんがが共演できるミュージカルを上演します</p> <p>学年の異なる子供たちも、全員が表現者・協働者となる作品を用意しました。演じる側と見る側という境目をなくして、会場の子供たちと呼応しながら、その日、その学校だけの「星の王子さま」を生み出します。緊張したり、失敗したりもしながら、感じ方も一人ひとり違うみんなで、力を合わせてひとつのものを創る機会です。「先生とも一緒につくった！」そんな子供たちのかけがえのない思い出となるよう、先生方の共演場面も準備しています。</p> <p>❸ すべての子供たちがのびのびと鑑賞・参加できるよう工夫します</p> <p>「じっとしてられない」「暗いところ、大きい音が苦手」「クラスになじめない」「新しい環境にられない」など、心身の生きづらさを抱えている子供たちも、自分のペースで心ゆくまで芸術を堪能できるよう、先生方に日頃の様子をお聞きしながら、ひとりひとりの子供たちと寄り添っていきます。</p> <p>❹ 子供たちの活躍、公演の様子、事業内容を、地域に発信します</p> <p>ご希望があれば、本公演の際、学校ごとの特色ある活動を発信・発表できる取り組み、子供たちの活躍を、地域住民や保護者などへ披露できる機会も個別につくります。さらに地方紙などへの事業広報も行います。</p> <p>何よりも、子供たちの反応と先生方のご意見にしっかりと耳を傾け、自分たちの創造活動を見直し、鍛錬と研鑽を重ね、子供たちの「生きる力」を育む一助となれるよう、一回一回の公演を創り出していきます。</p>

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

②事業を効果的かつ円滑に実施する方法

事前の打合せを必ず実施し、先生方が把握しやすく、安心できるやりとりを行う

1学期中に学校を訪問し、先生方との事前打合せを行います。

これまでの公演事例も話しながら、事業への期待、実施に向けた具体的な疑問や意見、不安に思うこともしっかりと話し合います。先生方の公演への想いを反映させて、事業全体のプログラムを作成していきます。

特に公演規模、所要時間は、明確に伝えられるよう、事前の打合せの段階で写真などを掲載した紙資料、運搬車両・設営の規模がわかりやすい映像資料をお渡しします。何より先生方が事務的なことにとらわれずに、団体を信頼できる、丁寧な対話、関係づくりを心がけます。

子供たちが安心して体験できる環境づくり

下記はこれまで行ってきた工夫の一例です。さまざまな工夫と試みを重ねて、みんなが参加・鑑賞できる環境を整えます。

- ・ 車椅子やストレッチャーの子供がいる場合は、舞台前を全面スロープへ変更。スロープ使用の際は、必ずスタッフが介助します。
- ・ 上演中、舞台袖や客席に複数名のスタッフを配置。子供たちの自由な表現を支えます。
- ・ 視覚、聴覚の障害がある児童生徒がいる場合は、音声ガイドや字幕、手話を演出に組み込んだバリアフリー版での上演も行います。
- ・ 暗いところや大きな音が苦手な子供たちがいる場合は、客席の明るさや音量を調整。なかなか体育館に入れない児童生徒もスタッフの声掛けやオペレート体験を通じて、舞台芸術に触れられるよう工夫します。

学校ごとの取り組み・キャリア教育等との連携

下記はこれまで実施した一例です。実施校の希望や要望に即して、プログラムを提案・実施します。

- ・ 児童生徒が「星の王子さま」を見て、参加した感想をみんなの前で発表
- ・ キャリア教育講話への参加や、「なぜ俳優、スタッフになったのか」「小学校のころの夢は？」などの質問コーナー
- ・ 舞台上でみんなで記念撮影(全校児童・先生・保護者も参加)
- ・ クラスに出演者スタッフが伺って、給食を食べながら交流
- ・ 職場体験の一環として、有志の生徒や部活動が舞台撤去をしながら交流